



## 平成25年11月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年7月8日

上場取引所 東 名

上場会社名 株式会社サーラコーポレーション

コード番号 2734 URL <http://www.sala.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 神野吾郎

問合せ先責任者 (役職名) 総務部総務グループマネージャー

(氏名) 武川裕樹

TEL 0532-51-1182

四半期報告書提出予定日 平成25年7月11日

配当支払開始予定日

平成25年7月26日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年11月期第2四半期の連結業績(平成24年12月1日～平成25年5月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年11月期第2四半期	72,147	△0.9	1,884	△6.4	2,086	△4.0	1,336	25.8
24年11月期第2四半期	72,826	5.0	2,013	34.8	2,174	41.7	1,062	△7.2

(注) 包括利益 25年11月期第2四半期 2,180百万円 (91.4%) 24年11月期第2四半期 1,139百万円 (△4.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年11月期第2四半期	34.77	—
24年11月期第2四半期	27.63	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年11月期第2四半期	97,678		29,136		28.7	
24年11月期	96,929		27,192		26.9	

(参考) 自己資本 25年11月期第2四半期 28,012百万円 24年11月期 26,106百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
24年11月期	—	5.00	—	6.00	11.00
25年11月期	—	5.00	—	—	—
25年11月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成25年11月期の連結業績予想(平成24年12月1日～平成25年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	139,000	1.2	1,950	15.9	2,200	10.6	1,250	27.1	32.51

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年11月期2Q	40,338,708 株	24年11月期	40,338,708 株
② 期末自己株式数	25年11月期2Q	1,893,979 株	24年11月期	1,893,533 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年11月期2Q	38,444,994 株	24年11月期2Q	38,448,195 株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は実施中でありませ

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	11
(5) セグメント情報等 .....	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新政権に対する期待や日本銀行による質的・量的金融緩和等を背景にした円安・株高の進行を受けて、企業収益の改善や個人消費の持ち直しを通じた景気回復への期待が高まっています。一方、実体経済への波及は未だ十分ではなく、市場の乱高下や欧州債務問題・米国金融政策等海外経済の動向に関する懸念等もあり、景気の先行きは依然不透明な状況にあります。

当社グループを取り巻く環境につきましては、第2四半期以降、気温が高めに推移したこと、LPガスの原料価格が円安の影響を受けて高水準でありましたこと、輸入車市場が堅調に推移したことなどが事業活動に影響を及ぼしました。

このような状況の中、当社グループは第4次中期経営計画（平成23年11月期～平成25年11月期）の完遂へ向け、既存事業のさらなる強化と新分野・成長分野への取組みを強力に推進しております。

その一環として、お客さまとの接点の一層の強化を図るため、ガステックサービス株式会社においては、御殿場・安城の各営業所にショールーム機能等を付加し、「サーラプラザ」としてリニューアルオープンしました。また、岐阜県第三番目の拠点として「岐阜各務原営業所」を新規開設いたしました。

注力分野と位置づけているリフォーム事業については、「サーラのリフォーム」確立の第一歩として、グループの全営業担当者を対象としてグループ横断型カリキュラムによる研修を実施し、手法・スキルの共有を図りました。また、新エネルギー関連事業では、家庭用太陽光発電や産業用ソーラーなどの拡販を強力に推進しました。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は前年同期比0.9%減の72,147百万円となり、売上原価は前年同期比0.7%減の56,229百万円となりましたことから、売上総利益は前年同期比1.8%減の15,918百万円となりました。販売費及び一般管理費は前年同期比1.2%減の14,034百万円となり、営業利益は前年同期比6.4%減の1,884百万円、経常利益は前年同期比4.0%減の2,086百万円となりました。特別利益は76百万円、特別損失は20百万円となり、法人税等費用は前年同期比28.8%減の764百万円となりましたので、四半期純利益は前年同期比25.8%増の1,336百万円となりました。

セグメント別の概況は次のとおりです。

#### エネルギーサプライ&ソリューション事業

売上高34,924百万円（前年同期比0.3%減）、営業利益1,671百万円（前年同期比14.0%減）

主力のLPガス販売は、気温が高めに推移し家庭用1戸当たり消費量が低下したこと等により、販売量が減少しました。また、石油製品販売は販売量、売上高とも前年同期を下回りましたので、全体の売上高は微減となりました。利益面では、円安に起因する原料価格上昇等により営業利益は減少しました。なお、リフォーム事業については、太陽光発電等の新エネルギー商材を含む提案型営業の展開により売上高は増加しました。

#### エンジニアリング&メンテナンス事業

売上高16,330百万円（前年同期比0.9%減）、営業利益247百万円（前年同期比15.5%増）

土木分野で大型の港湾工事・道路工事が完工する一方、設備・建築分野は設備投資等の伸び悩み・工事完成時期の遅れ等から、全体の売上高は微減となりました。利益面では、徹底した受注管理による利益率改善等により、営業利益は増加しました。なお、グループ連携の強化により産業用ソーラーの施工は大幅に増加しました。

#### カーライフサポート事業

売上高7,410百万円（前年同期比7.0%増）、営業利益378百万円（前年同期比22.5%増）

輸入車販売部門では、既存オーナーに対するフォローの徹底や新規顧客の開拓に努め、フォルクスワーゲン、アウディともに販売台数は大幅に増加しました。また、車検・点検のアフターセールスにも注力し、売上高、営業利益とも順調に増加しました。

#### アニマルヘルスケア事業

売上高10,088百万円（前年同期比7.2%減）、営業利益87百万円（前年同期比80.2%増）

動物用医薬品やワクチンの販売は、ほぼ横ばいでありましたが、療法食販売は大手得意先への販売減が響き全体の売上高は減少しました。利益面では、利益率の高い商品の販売に注力したことや、コスト削減を徹底したことなどにより営業利益は増加しました。

ホスピタリティ事業

売上高1,162百万円（前年同期比0.8%増）、営業損失185百万円（前年同期は営業損失210百万円）

ホテルアークリッシュ豊橋では、お客さまニーズに応えた魅力的なプランの提供により、宴会組数が増加し、ブライダルの組当たり単価は上昇しました。宿泊部門では、ホテルアークリッシュ豊橋・ホテルday by dayともに客室稼働率が上昇しました。これらにより全体の売上高は増加し、経費削減に努めたことなどにより営業損失は縮小しました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債、純資産の状況

(資産)

資産は97,678百万円と、前連結会計年度末と比較して748百万円増加しました。これは主に、「現金及び預金」が1,608百万円増加したこと、「投資有価証券」が1,219百万円増加したことに対し、「受取手形及び売掛金」が1,416百万円減少したこと、「有形固定資産」が減価償却などにより487百万円減少したことによるものであります。

(負債)

負債は68,542百万円と、前連結会計年度末と比較して1,195百万円減少しました。これは主に、「長期借入金」が756百万円減少したこと、「支払手形及び買掛金」が652百万円減少したこと、「賞与引当金」が548百万円減少したことに対し、「短期借入金」が1,000百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

純資産は29,136百万円と、前連結会計年度末と比較して1,943百万円増加しました。これは主に、「利益剰余金」が、四半期純利益の計上により1,336百万円増加し、配当の実施により231百万円減少したこと、「その他有価証券評価差額金」が800百万円増加したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、営業活動による資金の増加2,467百万円、投資活動による資金の減少938百万円、財務活動による資金の増加79百万円となり、あわせて1,608百万円増加いたしました。この結果、当第2四半期連結会計期間末の資金は9,542百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、2,467百万円（前年同四半期は3,751百万円の資金の獲得）となりました。これは主に、「税金等調整前四半期純利益」2,142百万円、「減価償却費」1,639百万円、「売上債権の減少額」1,081百万円などの増加要因と、「仕入債務の減少額」660百万円、「賞与引当金の減少額」548百万円、「たな卸資産の増加額」456百万円、「法人税等の支払額」538百万円などの減少要因によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、938百万円（前年同四半期は802百万円の資金の使用）となりました。これは主に、「有形固定資産の取得による支出」1,030百万円、「貸付けによる支出」317百万円、「無形固定資産の取得による支出」157百万円などの減少要因と、「貸付金の回収による収入」320百万円、「有形固定資産の売却による収入」257百万円などの増加要因によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は、79百万円（前年同四半期は1,407百万円の資金の使用）となりました。これは主に、「長期借入れによる収入」2,800百万円、「短期借入金の純増額」1,000百万円などの増加要因と、「長期借入金の返済による支出」3,384百万円、「配当金の支払額」231百万円などの減少要因によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年11月期連結通期の業績予想につきましては、平成25年1月11日に公表しました業績予想に変更はありません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年12月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による損益への影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,933	9,542
受取手形及び売掛金	20,168	18,751
商品及び製品	4,152	4,568
仕掛品	2,716	2,743
原材料及び貯蔵品	190	219
繰延税金資産	833	638
その他	3,198	3,312
貸倒引当金	△271	△238
流動資産合計	38,921	39,538
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	17,552	17,026
機械装置及び運搬具（純額）	2,058	2,026
導管（純額）	1,950	1,852
土地	22,447	22,737
建設仮勘定	9	17
その他（純額）	2,973	2,842
有形固定資産合計	46,991	46,504
無形固定資産		
のれん	390	272
その他	1,910	1,725
無形固定資産合計	2,300	1,998
投資その他の資産		
投資有価証券	3,756	4,975
長期貸付金	509	479
繰延税金資産	2,273	1,941
その他	2,543	2,606
貸倒引当金	△366	△365
投資その他の資産合計	8,716	9,637
固定資産合計	58,008	58,140
資産合計	96,929	97,678

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,822	16,170
短期借入金	14,120	15,120
1年内返済予定の長期借入金	6,430	6,602
未払法人税等	427	429
賞与引当金	1,372	824
役員賞与引当金	9	3
完成工事補償引当金	16	13
工事損失引当金	112	96
ポイント引当金	106	109
その他	7,425	7,027
流動負債合計	46,843	46,397
固定負債		
長期借入金	12,546	11,790
繰延税金負債	137	142
退職給付引当金	6,285	6,386
役員退職慰労引当金	519	509
修繕引当金	29	31
その他	3,375	3,284
固定負債合計	22,893	22,144
負債合計	69,737	68,542
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	8,025	8,025
資本剰余金	9,019	9,019
利益剰余金	9,826	10,932
自己株式	△953	△953
株主資本合計	25,917	27,022
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	188	989
その他の包括利益累計額合計	188	989
少数株主持分	1,086	1,124
純資産合計	27,192	29,136
負債純資産合計	96,929	97,678



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年12月1日 至 平成24年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年12月1日 至 平成25年5月31日)
売上高	72,826	72,147
売上原価	56,609	56,229
売上総利益	16,216	15,918
販売費及び一般管理費	14,203	14,034
営業利益	2,013	1,884
営業外収益		
受取利息	9	10
受取配当金	25	20
負ののれん償却額	0	0
持分法による投資利益	137	117
その他	203	230
営業外収益合計	377	378
営業外費用		
支払利息	198	159
その他	17	17
営業外費用合計	216	176
経常利益	2,174	2,086
特別利益		
固定資産売却益	40	76
投資有価証券売却益	0	—
特別利益合計	40	76
特別損失		
固定資産除売却損	23	20
投資有価証券評価損	3	—
特別損失合計	27	20
税金等調整前四半期純利益	2,188	2,142
法人税、住民税及び事業税	627	551
法人税等調整額	446	213
法人税等合計	1,074	764
少数株主損益調整前四半期純利益	1,114	1,377
少数株主利益	51	40
四半期純利益	1,062	1,336

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年12月1日 至平成24年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年12月1日 至平成25年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,114	1,377
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	15	800
持分法適用会社に対する持分相当額	9	2
その他の包括利益合計	24	802
四半期包括利益	1,139	2,180
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,086	2,137
少数株主に係る四半期包括利益	52	42

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年12月1日 至平成24年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年12月1日 至平成25年5月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,188	2,142
減価償却費	1,724	1,639
のれん償却額	178	120
負ののれん償却額	△0	△0
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△45	△33
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△467	△548
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1	△6
完成工事補償引当金の増減額 (△は減少)	△2	△3
工事損失引当金の増減額 (△は減少)	△110	△15
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	2	3
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	159	100
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△9	△10
修繕引当金の増減額 (△は減少)	2	2
受取利息及び受取配当金	△35	△30
支払利息	198	159
持分法による投資損益 (△は益)	△137	△117
固定資産除売却損益 (△は益)	△28	△62
投資有価証券売却損益 (△は益)	△0	—
投資有価証券評価損益 (△は益)	3	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,632	1,081
たな卸資産の増減額 (△は増加)	234	△456
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,630	△660
その他	318	△180
小計	4,169	3,124
利息及び配当金の受取額	61	66
利息の支払額	△213	△178
法人税等の支払額	△302	△538
その他	37	△5
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,751	2,467

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年12月1日 至 平成24年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年12月1日 至 平成25年5月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△687	△1,030
有形固定資産の売却による収入	151	257
無形固定資産の取得による支出	△243	△157
投資有価証券の取得による支出	△1	△2
投資有価証券の売却による収入	0	6
貸付けによる支出	△330	△317
貸付金の回収による収入	309	320
その他	△2	△13
投資活動によるキャッシュ・フロー	△802	△938
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,420	1,000
長期借入れによる収入	2,400	2,800
長期借入金の返済による支出	△2,079	△3,384
自己株式の取得による支出	△1	△0
配当金の支払額	△193	△231
少数株主への配当金の支払額	△24	△11
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△89	△93
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,407	79
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,541	1,608
現金及び現金同等物の期首残高	7,312	7,933
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,853	9,542

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間(自平成23年12月1日至平成24年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	エネルギー サプライ& ソリューション事業	エンジニア リング&メ ンテナンス 事業	カーライフ サポート事 業	アニマルヘ ルスケア事 業	ホスピタリ ティ事業	計				
売上高										
外部顧客への売上高	35,019	16,475	6,923	10,875	1,153	70,446	2,380	72,826	—	72,826
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	861	719	33	0	15	1,631	511	2,142	△2,142	—
計	35,881	17,194	6,957	10,876	1,168	72,078	2,891	74,969	△2,142	72,826
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	1,944	214	308	48	△210	2,306	59	2,366	△352	2,013

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、自動車部品製造、割賦販売及びリース等を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△352百万円には、セグメント間取引消去85百万円、全社費用△437百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 平成24年12月1日 至 平成25年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	エネルギー サプライ& ソリューション事業	エンジニア リング&メ ンテナンス 事業	カーライフ サポート事 業	アニマルヘ ルスケア事 業	ホスピタリ ティ事業	計				
売上高										
外部顧客への売上高	34,924	16,330	7,410	10,088	1,162	69,916	2,231	72,147	—	72,147
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	737	618	53	0	13	1,422	426	1,849	△1,849	—
計	35,662	16,948	7,463	10,089	1,175	71,339	2,657	73,997	△1,849	72,147
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	1,671	247	378	87	△185	2,200	△11	2,188	△304	1,884

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、自動車部品製造、割賦販売及びリース等を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失 (△) の調整額△304百万円には、セグメント間取引消去140百万円、全社費用△444百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

「会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更」に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年12月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

なお、この変更によるセグメント損益に与える影響は軽微であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。